進行性胃がんで「余命半年」の宣告
三重FM社長　川島博志さん
「最後の仕事は開局40周年の成功」

淡々と最後の思いを語る川島社長（津市の三重 FM 放送本社で）

三重エフエム放送（三重県津市）社長の川島博志さん（64）が今年１月、主治医から進行性の胃がんに効く抗がん剤がなくなった、と余命半年の宣告を受けた。４年前の社長就任時に本誌がインタビューしたご縁もあり、４月６日、８日の２回にわたり人生最後の仕事に賭ける川島さんの思いを改めてお聞きした。

（編集顧問　中西英夫）

川島　博志（かわしま・ひろし）
１９６０年生。大阪府出身。８４年拓殖大学政経学部政治学科卒、同年中日新聞社入社、名古屋本社、大阪支社、東京本社広告局を経て、２０１２年名古屋本社広告局営業推進部長、１４年同局次長、１６年大阪支社次長、１９年大阪支社長。２１年６月から現職。

中西　社長に就任された４年前はとてもお元気でした。

川島社長　2021 年６月末に中日新聞社大阪支社長からこちらに赴任しました。新聞社時代は広告営業一筋でしたから経営者になるのは初めてです。社員 20 名の会社で転勤もなく、社内の空気は澱んでいるだろうなと想像していましたが、案の定その通りでした。

着任後、全社員と面談し、業務や希望、本音も含め文書にしてもらい話を聞きました。すると聞こえてくるのは会社への不満ばかり。営業部ではベテランと中堅以下の断層があって「空気を変えなきゃ」と感じ、自ら営業本部長として先頭に立ちました。

大阪で胃の全摘手術

― そんな中、病気が見つかった。

川島社長　年末に定期健康診断があり、バリウム検査で異常ありとして再検査。年が明けたら再検査をするつもりでしたが、年始あいさつなどに忙殺されて行きそびれたのです。秋には胃がキリキリと痛み出して、薬局で胃薬を買うほどになり、年末の健康診断では最初から胃カメラを希望。「要精密検査」でした。再度の胃カメラで進行性の胃がんで最悪のステージ４の手前の３と診断され、要手術となりました。

当時はまだコロナ禍中で地元病院での開腹手術も考えましたが、術後が楽な腹腔鏡式で手術ができ、全国で３番目に術例が多い、大阪国際がんセンターで 2023 年２月に胃の全摘と食道の一部を切除しました。